

あなたもやってミント!

～社会教育委員による訪問記～

人口の少ない町内でスポーツセンターに7台もの本格的なトランポリンが設置されているわけを尋ねてみよう、長年指導くださっている秋山範彦さんにお話をうかがいながら取材をしてきました。

三月三〇日の日曜日、トランポリンフェスティバルが実施される会場のスポーツセンターに行ってみました。きっかけは、二月に行われた道東トランポリン少年団合同練習での子ども達の演技がとてもきれいでリズム感があり、さわやかな気持ちになれたからでした。

最初に団員の紹介がありました。全員で一八名、本日の参加者は十三名とのことでした。団員は小学校一年生からで、現在の団員のほとんどが一年生から入っているそうです。また、上渚滑、遠軽、紋別から参加

している団員もいるということでした。

八時三〇分子ども達の挨拶のあと一年生発表がありました。まっすぐただひたすら上にむかって飛び続ける。技の基本だそうです。この発表会の目的は多くの保護者や子どもたちにトランポリンの良さを体験してもらうためと、普段、父母が滝上以外の大会に見に行けないので例年実施しているそうです。

秋山さんとトランポリンとの出会いは高校時代だそうです。帰町し中学校の体育館の片隅にあった一台を利用し活動を進めていったそうです。その後、団員数も多くなり、町関係者の理解をいただきながら徐々に台数を増やし現在に至っているとのことでした。

トランポリンの魅力を子どもたちに聞くと「ふあふあ、高く飛ぶ」だそうです。

当日は北海道新聞紋別支局からも取材に来ていて翌日の新聞にはシンクロの部の中学生二名の華麗

な演技が掲載されていました。

トランポリンの体力の消耗は激しく、三分間ジャンプを続けると一〇キロメートル走ったほどの体力を消耗するそうです。



発表会も進み、技の披露や二人一組のペアでの演技には四〇名の保護者や愛好者らが熱い視線を当て、子ども達の興ずる演技に歓声を上げていました。

当日は他のフロアでゲートボール愛好者が競技をしていましたが発表会が始まると一時競技を中止し、子ども達の演技に大きな声援を送っていました。おじいちゃん、おばあちゃん声援本当にありがとうございました。

発表会の後、七台のトランポリンをフル活用し、スポーツ少年団員が危険防止のための補助にあたり特に幼児が楽しそうにトランポリンを楽しむ姿がとても可愛かったです。

私も挑戦しましたが、まず台に上るのに一苦労、飛び始めてもバランス感覚を維持できず、あえなく撃沈してしまいました。

取材にご協力いただいた皆様に感謝し、ペンを置きます。(N記)

